

## Lesson

## 2 門扉の配置を考えましょう。

## 敷地の条件や動線に沿って計画を

門の配置は「平行・斜め・直角」の3パターンが基本です。いずれもアプローチの取り方で視線をコントロールしたり、車庫や庭への動線も考えてプランします。また道路と敷地の高低差や、隣接する車庫のレイアウトもあわせて考えましょう。

## ■「門扉の配置とアプローチ」

A 道路と敷地に 高低差がない場合	A-1	A-2	A-3
	A-1	A-2	A-3
B 道路と敷地に 高低差が 少しある場合	B-1	B-2	B-3
	平行配置で500~600mm程度の高低差なら、門扉の前に階段を持つてく方が連續する塘との納まりがよい。奥行きがあまりとれない場合にも適しています。	車庫が隣接する場合、車庫との動線も考えて横方向に階段を取るとスムーズ。車庫前に門扉は設けたいなら、片開き扉と組み合わせるとスペースが有効に。	車椅子用のスロープを併設したプラン。限られたスペースに設置するのは難しいですが、スロープを横方向に取って距離を稼ぎます。手すりの設置も必要。※
C 道路と敷地に 高低差が かなりある場合	C-1	C-2	C-3
	かなり高低差がある場合、階段は門の内側に設置するのが一般的。階段はできるだけ一直線にならないように曲げたりアルに、跳上げも低めに設計します。	2m以上高低差がある場合は、車庫を地下にして敷地を有効活用。車庫と門は隣接させ、門扉は道路沿いに設置。階段は途中で休める踊り場を設けてください。	地下車庫にしない場合でも車庫と門は隣接させ、階段は内側に。門は2段ほど上がってから設置すると圧迫感がなくなります。車庫からのアクセスも考えて。

※車椅子利用のスロープの勾配は、法的に屋内で1/12以下、屋外で1/20以下。高低差50cm以下なら緩和がありますが、例えば60cmの高低差があると、1/12でも7.2mの距離が必要です。

## A-3

門扉を直角にしたもので  
視線が入らず落ち着きます

玄関がまる見えにならないように手前に埠を立て、門扉を直角に配置。中央に空間をとて樹木や緑を植え、奥行を感じさせるとともに、フォーカルポイント（見せ場）として道路から見たときに爽やかでおしゃれな印象に。



(I様邸)

## B-1

やや奥まった感じに設置  
自転車用のスロープも併設

平行位置の門。ステップとスロープを併設し、奥まった感じに設置したので落ち着きます。天然石の床やポストなど要所に黒を引き、白でまとめた外観のアクセントに。スロープは子どもたちの自転車用に重宝しています。

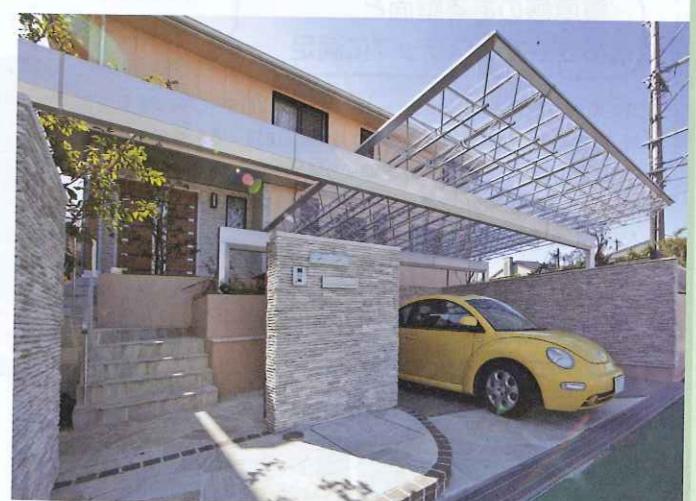


(H様邸)

## C-3

階段を上がりながら  
角の樹木や緑を楽しんで

高低差のある家。門とカースペースは隣接。門から玄関までのアプローチは、床に天然石、壁にムク材があしらわれ、豊かな気分で歩けます。ステップは数段ごとに折れ曲がり、コーナーの樹木や花壇を楽しみながら玄関へ。



(K様邸)